



いはらき県議会だより

茨城県議会 検索 <http://www.pref.ibaraki.jp/gikai/>

No.206

※ホームページでは本会議および予算特別委員会を生中継および録画中継しています
県議会携帯サイト <http://mobile.pref.ibaraki.jp/?page=3044>
「いばキラTV」<http://www.ibakira.tv/> 本会議および予算特別委員会を生中継しています
音声版「声の県議会だより」および「点字版県議会だより」も作成しています



発行:茨城県議会 編集:県議会情報委員会
〒310-8555 水戸市笠原町978番6
Tel.029-301-5646 [年4回発行]

茨城県総合計画

～「新しい茨城」への挑戦～

県は11月に、平成30年度から4年間の県政運営の指針となる「茨城県総合計画～『新しい茨城』への挑戦～」を策定しました。新たな県総合計画については、県議会の「新しい茨城づくり調査特別委員会」でも活発な議論を行い、議会からの提言が数多く盛り込まれた内容となっています。

計画の
基本理念

「活力があり、県民が日本一幸せな県」

基本理念の実現に向けた4つのチャレンジ

新しい豊かさ

力強い産業の創出とゆとりある暮らしを育み、新しい豊かさを目指します。

新しい人財育成

茨城の未来をつくる「人財」を育て、日本一子どもを産み育てやすい県を目指します。

新しい安心安全

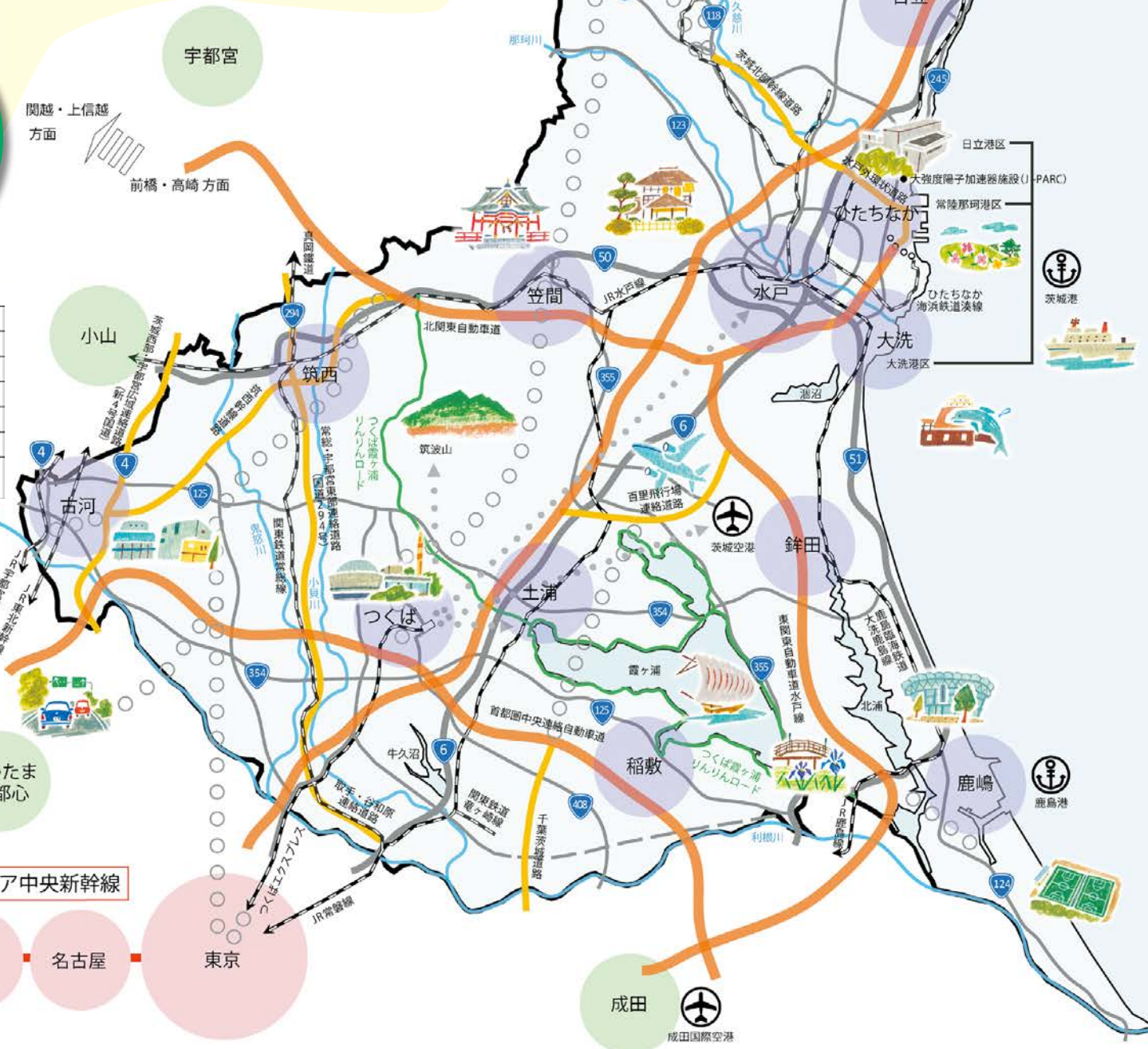
医療、福祉、治安、防災など県民の命を守る生活基盤を築きます。

新しい夢・希望

将来にわたって夢や希望を描ける県とするため、観光創生や魅力向上を図ります。

2050年頃の 茨城の姿

	高規格幹線道路
	広域幹線道路
	主な幹線道路
	鉄道
	重要港湾・空港
	主な自転車道
	構想路線・鉄道



さいたま
新都心

リニア中央新幹線

大阪

名古屋

東京

成田

成田国際空港

いわき

FIT構想
(福島・茨城・栃木)

第四回定例会の概要

平成三十年第四回定例会は、十月二十九日から十一月十四日まで十七日間の会期で開かれました。

議案は、議員などから、茨城県子どもを虐待から守る条例など、知事から、茨城県核燃料等取扱税条例などが提出されました。

一般質問は、県北地域への宿泊施設の誘致、バーチャルYouTubeを活用した本県の魅力向上などの項目について行われました。(二～三面)

各常任委員会では、付託議案の審査、その他所管事務に関する質問を行い、新たな県総合計画の推進、太陽光発電設備の撤去・処分に向けた対応、全国障害者スポーツ大会に向けた競技力向上、林業における経営体の育成、借楽園での定期的なイベント開催、本県が目指す教育などを議論しました。(四～五面)

国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会では、両大会の成功に向けた取り組みなどについて本会議で報告しました。(七面)

新しい茨城づくり調査特別委員会では、新たな県総合計画の在り方に関する調査・検討結果について本会議で報告しました。(七面)

決算特別委員会では、平成二十九年度決算の認定議案などについて審査しました。(八面)

今回の定例会では、予算、条例認定、報告、意見書、請願などの三十五件の議案などが可決、承認、承認、採択されました。

一般質問(要旨)

●質問者

- 11月1日(木) 西野 一 (いばらき自民党)
- 11月2日(金) 鈴木 定幸 (いばらき自民党)
- 11月5日(月) 田口 伸一 (いばらき自民党)
- 11月7日(水) 齋藤 英彰 (県民フォーラム)
- 11月8日(木) 横山 忠市 (いばらき自民党)
- 11月9日(金) 金子 晃久 (いばらき自民党)
- 11月12日(月) 下路 健次郎 (いばらき自民党)
- 11月14日(水) 本 会 (委員長報告、採決、閉会)

第4回定例会の主な日程

11月1日(木)	本 会
2日(金)	本 会
5日(月)	本 会
11月7日(水)	常任委員会
11月8日(木)	決算特別委員会
11月9日(金)	新しい茨城づくり調査特別委員会
11月12日(月)	国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会
11月14日(水)	本 会



西野 一 議員
いばらき自民党
常陸太田市選出
分割方式

県北地域への宿泊施設の誘致

議員 県北地域は、アートによるまちづくりの機運の高まりをはじめ、自然や文化、芸術などの魅力を有している。これらの魅力を生かした宿泊施設の誘致を図ることが県北振興につながるが、所見は、地域全体の魅力向上にも貢献できるような施設の立地が望ましいと考える。そのため、自然景観やアクティビティ、地域特産の食など、県北地域の特有の魅力をしっかりとし、事業者売り込んでいく。



議員 金子 晃久
いばらき自民党
常陸一括方式

バーチャルYouTuberを活用した本県の魅力向上

議員 茨城県公認のバーチャルYouTuber※「茨ひより」は、本県が魅力度ランキング最下位を脱出するための鍵になるものである。これを活用し、どのように本県の魅力向上を図っていくのか。営業戦略部長 配信する動画については、より一層本県の魅力が伝わるよう、現場からのレポートを新たに取り入れる。また、海外への情報発信にも取り組み、「茨ひより」の発する本県の魅力を国内外へと広く伝えていく。

本県肉用牛の生産振興

議員 農家の高齢化などに伴う牛の生産頭数減少による価格高騰は、常陸牛生産農家に大きな負担となっている。CBS※の活用により、本県肉用牛の生産振興にどのように取り組んでいくのか。



本年3月に大子町に整備されたCBS

農林水産部長 CBS活用効果

説明による利用促進や耕作放棄地放牧の推進、新規繁殖和牛経営入門講座の充実により、担い手を確保し、肉用牛の生産振興を図る。(ほかに、県北地域の振興と芸術村構想、国道二九三号バイパスや県道常陸那珂港山方線の整備なども質問)

水害に備えた避難確保計画の作成

議員 水防法により要配慮者利用施設に義務付けられた、避難確保計画の作成が進んでいない。計画作成の推進に向けて、今後どのように取り組んでいくのか。

防災・危機管理部長 避難確保計画が未作成の施設に対し、改めて説明会を開催するなど、速やかな計画の作成に向けて指導していく。

また、要配慮者利用施設を地域防災計画に定めていない市町村には、必要な対応を強く働き掛けていく。(ほかに、保健所の再編、太陽光発電設備の撤去・処分に係る対応なども質問)



茨城の魅力を伝える動画を配信する「茨ひより」

今定例会で可決された議案など

- ◆議員など提出
 - ◆条例の制定
 - 茨城県子どもを虐待から守る条例
 - ◆条例の一部改正
 - 茨城県議会委員会条例の一部を改正する条例
 - ◆意見書
 - 事業終了後の太陽光発電設備が確実に撤去・処分される制度の実現を求める意見書
 - 私学助成の拡充強化等に関する意見書
- ◆知事提出
 - ◆平成三十年度補正予算関係
 - 一般会計予算
 - ◆条例の制定
 - 茨城県核燃料等取扱税条例
- ◆請願
 - 平成三十一年度私立高等学校等経常費等助成に関する請願
 - ◆報告
 - 地方自治法第七十九条第一項の規定に基づく専決処分について
- ◆条例の一部改正
 - 茨城県地方活力向上地域等における県税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例
- ◆認定
 - 平成二十九年度茨城県公営企業会計決算の認定について
- ◆その他
 - 平成二十九年度茨城県公営企業会計に係る利益の処分について



議員 下路 健次郎
いばらき自民党
那珂一括方式

原子力過酷事故によるリスク

議員 原子力過酷事故が発生した際の本県が抱えるリスクを正確に把握し、避難計画の実効性を高める必要があると考えるが、所見は、知事 事故の発生から放射性物質の放出までに避難などが円滑に実施できるのかや、屋内退避による被ばくの低減効果などについて検証する必要がある。常に最悪の事態を想定しながら、さまざまな観点から避難計画の検証を行い、実効性ある原子力防災体制の構築を図っていく。

原子力に関する人材育成

議員 原子力災害の発生に備え、学校現場で緊急時に中心的に行動できる人材の育成を図るべきである。学校における子どもたちの安全確保にどう取り組むのか。教育長 学校における原子力防災マニュアルを今年度内を目的に改定する。また、教員対象の研修の充実を図り、特に、管理職をはじめとする指導的な立場となる教員の対応力の向上に取り組む。(ほかに、原子力産業を支える人材育成、核燃料等取扱税なども質問)



教員を対象とした放射線に関連する研修の様子

※【CBS】…キャトル・ブリーディング・ステーション。農家から分娩直後の母牛を預かり、人工授精や妊娠確認などの繁殖管理を行う施設。
※【バーチャルYouTuber】…インターネットで動画を閲覧できる代表的なサイト「YouTube」上で、動画の配信活動などを行う架空のキャラクター。

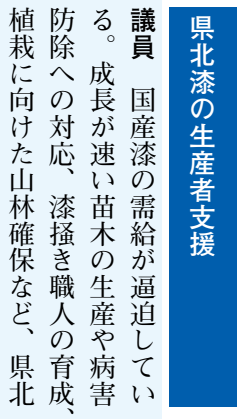


鈴木 定幸 議員
いばらき自民党
常陸大宮市選出
一括方式

一人当たり県民所得目標達成に向けた取り組み

議員 現状、県北山間部における所得の低さが際立つ中、新たな県総合計画に掲げる数値目標の達成に向け、この地域の所得向上にどう取り組むのか。

知事 所得の向上には、各地域の創意工夫と強みを生かした産業振興が重要である。県北山間地域では、枝物の産地化などによる農林業の成長産業化、戦略的な企業誘致、多様な地域資源を生かした広域観光などを進めることにより、地域経済の成長を図っていく。



議員 国産漆の需給が逼迫している。成長が速い苗木の生産や病害防除への対応、漆掻き職人の育成、植栽に向けた山林確保など、県北漆の生産振興にどう取り組むのか。

議員 現状、県北山間部における所得の低さが際立つ中、新たな県総合計画に掲げる数値目標の達成に向け、この地域の所得向上にどう取り組むのか。

知事 所得の向上には、各地域の創意工夫と強みを生かした産業振興が重要である。県北山間地域では、枝物の産地化などによる農林業の成長産業化、戦略的な企業誘致、多様な地域資源を生かした広域観光などを進めることにより、地域経済の成長を図っていく。



県北漆の増産に向けた支援を

県北漆の生産者支援



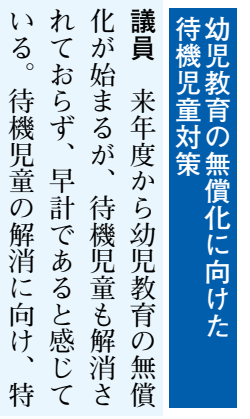
川口 政弥 議員
自民県政クラブ
取手市選出
一括方式

県財政の健全化

議員 人口減少や高齢化が進み、大幅な増収が見込めない中、インフラの再整備や地域活性化のための事業など必要な経費は増加が見込まれる。県財政の健全化に向けてどのように取り組んでいくのか。

知事 将来世代の受益につながる事業に挑戦していくため、施策の「選択と集中」の徹底など、戦略的に予算編成を進める。また、幅広い手法で財源確保を図るほか、主要な財政指標について目標を定め、健全な財政運営に努めていく。

幼児教育の無償化に向けた待機児童対策



議員 来年度から幼児教育の無償化が始まるが、待機児童も解消されておらず、早計であると感じている。待機児童の解消に向け、特に問題となっている保育士確保にどのように取り組んでいくのか。

議員 人口減少や高齢化が進み、大幅な増収が見込めない中、インフラの再整備や地域活性化のための事業など必要な経費は増加が見込まれる。県財政の健全化に向けてどのように取り組んでいくのか。

知事 将来世代の受益につながる事業に挑戦していくため、施策の「選択と集中」の徹底など、戦略的に予算編成を進める。また、幅広い手法で財源確保を図るほか、主要な財政指標について目標を定め、健全な財政運営に努めていく。



幼児教育無償化に向け課題解決を

新たな県総合計画に基づく県北地域の振興



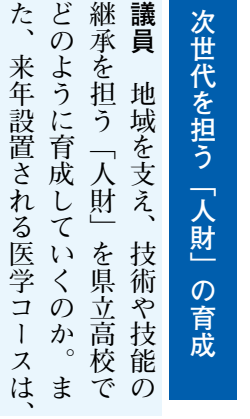
齋藤 英彰 議員
県民フォーラム
日立市選出
一括方式

新たな県総合計画に基づく県北地域の振興

議員 県内十一の地域区分が新設され、県北は臨海部と山間部に分けられるが、いかに連携させて振興を図るのか。他の地域区分の活力や魅力をどう波及させるのか。

知事 農林畜産物の国内外への販路拡大、つくばや東海に集積する研究機関などからの技術移転、旅行会社への広域観光周遊ルート造成の働き掛けなど、地域の枠を越えたネットワークを構築し、企業誘致や産業・観光の振興、移住・二地域居住の推進などに努める。

次世代を担う「人財」の育成



議員 地域を支え、技術や技能の継承を担う「人財」を県立高校でどのように育成していくのか。また、来年設置される医学コースは、具体的にどのように取り組むのか。

議員 人口減少や高齢化が進み、大幅な増収が見込めない中、インフラの再整備や地域活性化のための事業など必要な経費は増加が見込まれる。県財政の健全化に向けてどのように取り組んでいくのか。

知事 将来世代の受益につながる事業に挑戦していくため、施策の「選択と集中」の徹底など、戦略的に予算編成を進める。また、幅広い手法で財源確保を図るほか、主要な財政指標について目標を定め、健全な財政運営に努めていく。



日立市内で実施されている高校生の企業実習の様子



島田 幸三 議員
いばらき自民党
小美玉市選出
一括方式

サイクリングを生かした観光誘客

議員 つくば霞ヶ浦りんりんロードは、ナショナルサイクルルート※の認定を目指すとともに、茨城空港からの路面標示などを整備すべきと考えるが、所見は。

知事 国の認定要件に合致するように、県版自転車活用推進計画に位置付けていく。また、茨城空港からは約五キロの立地環境にあるので、国内外からの客が安全で快適にサイクリングを楽しむことのできるよう、標識などの早期整備を進めていく。

大規模災害団員の導入

議員 大規模災害団員※の導入に向け、市町村への早急な働き掛けが必要と考えるが、どのように取り組んでいくのか。

知事 早期に全県で普及させていくことが重要である。市町村に対し、消防職員や消防団員のOBのほか、自主防災組織構成員に参加を呼び掛けることなど、具体的な確保策をアドバイスし、積極的な導入を支援していく。

知事 国の認定要件に合致するように、県版自転車活用推進計画に位置付けていく。また、茨城空港からは約五キロの立地環境にあるので、国内外からの客が安全で快適にサイクリングを楽しむことのできるよう、標識などの早期整備を進めていく。



つくば霞ヶ浦りんりんロードの空の玄関口である茨城空港



田口 伸一 議員
いばらき自民党
鹿嶋市選出
分割方式

鹿島臨海工業地帯の将来像

議員 鹿島地域が活力を失わずに存続していくためには、地域の核である鹿島臨海工業地帯の競争力強化や鹿島港のさらなる発展が重要と考える。今後の取り組みは。

知事 本県経済を支える当工業地帯の競争力強化に向けて、立地企業とも連携し、IoTやAIなどの活用による生産管理体制の高度化などに取り組む。鹿島港については、地元と連携して貨物の増加に取り組むとともに、さらなる整備を国に強く働き掛けていく。



さらなる発展が期待される鹿島港

鹿行地域の医師の確保と救急医療体制の充実・強化

議員 鹿行地域の医師確保や救急医療体制の充実・強化に向けた今後の取り組みは。

知事 九月に神栖済生会病院の整形外科を「最優先で医師確保に取り組み医療機関・診療科」に選定した。今後二年以内の医師確保を目指す。また、来年七月から防災ヘリによるドクターヘリの補完運航を開始する。加えて、遠隔医療のさらなる活用を検討する。

知事 本県経済を支える当工業地帯の競争力強化に向けて、立地企業とも連携し、IoTやAIなどの活用による生産管理体制の高度化などに取り組む。鹿島港については、地元と連携して貨物の増加に取り組むとともに、さらなる整備を国に強く働き掛けていく。



横山 忠市 議員
いばらき自民党
行方市選出
一括方式

鹿行地域の将来像

議員 鹿行地域は、新たな県総合計画で人口減少や高齢化が予想される。一方、農業、観光、産業集積などの地域資源があり、発展可能性を秘めている。将来像をどう描き、どう取り組んでいくのか。

知事 現状と課題を踏まえ、産業基盤が整備され、観光などで交流が活発となった姿を描いている。その実現のため、儲かる農業、工業の競争力強化、観光やスポーツによる交流拡大に取り組んでいく。

霞ヶ浦・北浦の水産業の振興

議員 霞ヶ浦・北浦の水産業は、東日本大震災の被害などにより漁獲量が大きく落ち込んだ。その風評被害も落ち着きつつある現在、どのように霞ヶ浦・北浦の水産業振興に取り組むのか。

知事 農林水産部、業界団体と連携し、資源管理型漁業、水生植物帯の造成など魚類のすみやすい湖づくりに、水産物フェア開催など流通販売対策、漁業者組織支援など担い手の育成、新技術開発を推進していく。

知事 現状と課題を踏まえ、産業基盤が整備され、観光などで交流が活発となった姿を描いている。その実現のため、儲かる農業、工業の競争力強化、観光やスポーツによる交流拡大に取り組んでいく。



わかさぎ漁解禁日の様子

※【ナショナルサイクルルート】…日本を代表し、世界に誇るサイクリングルートとして、国内外への情報発信などを強気に展開しようとする制度。
※【大規模災害団員】…大規模災害時に新たに業務が発生したり、通常の基本団員だけでは人手不足となる場合に限り出動する消防団員。
※【GAP】…農業において、食品安全、環境保全などを確保するための生産工程管理の取り組み。

常任委員会の審査から

総務企画委員会

**新たな県の総合計画を
どのように推進していくのか
指標の進捗管理に努めながら
関係部局と連携して取り組んでいく**

問 議会の調査特別委員会でも議論を行った、新たな県の総合計画が策定されようとしている。今後、計画を庁内でのように推進していくのか。

答 計画に記載した取り組みの推進については、PDCAサイクルを意識しながら、施策の目標となる指標の着実な進捗管理に努めていく。庁内の体制については今後の検討になるが、関係部局としっかりと連携して取り組んでいく。

問 タンDEM自転車※の公道走行については、鹿児島県で解禁されるなど全国的な流れであると考え。本県でも、タンDEM自転車の公道走行の解禁を求めるが、所見は。

答 タンDEM自転車による走行は、多様なサイクリングの楽しみ方の一つと認識している。公道走行の解禁に向けて、警察でも検討を進めており、できるだけ早い解禁を目指し、環境を整えていきたい。

問 議員提案条例には県民の意見が広く反映されている。その制定を踏まえた対応として、予算上も重きを置いてほしいと考えるが、所見は。

答 議員から提案をいただいた条例であり、執行部として



自転車歩行者専用道路でのタンDEM走行

も大変重く受け止めている。これまでも、野生鳥獣被害防止対策条例やがん向き合うための県民診療条例の制定を受け、予算増額や補助制度新設などの対応を行っている。

問 来年度の予算については、総額を増やしても、県民が「新しい茨城」を実感できるものにしてほしいと考えるが、予算編成に当たっての方針は。

答 新しい茨城づくりに向けて、PDCAサイクルを回しながら施策の「選択と集中」を図っていく。人口減少などを念頭に、将来の財政状況を見据えながらも、積極果敢に挑戦できる予算編成に努める。(ほかに、公共交通空白地域の解消、市町村への権限移譲なども質問)

防災環境産業委員会

**太陽光発電設備の確実な
撤去・処分に向けた対応は
国に対し必要な法制度の創設を
求めている**

問 太陽光発電事業の終了後にパネルなどの大量の設備が放置されることが危惧される。事業終了後の設備の確実な撤去・処分に向け、本委員会も積極的な対応が必要と考える。これまでの県の対応は。

答 事業終了に備え、撤去などの費用を担保する制度が望ましい。このため、国に対し、事業者が撤去・処分費用の積み立てなどを義務付ける法制度の創設を求めている。国からは、今年度中に結論を出すことを目指すと聞いている。

問 指定避難所の立地・住環境について、市町村へ調査を依頼しているとのことだが、和式・洋式のトイレの数も把握すべきと考える。所見は。

答 現在、トイレやエアコンの数、非常用発電機の有無、食料や毛布の備蓄状況などを調査している。今後の市町村へのヒアリングで、トイレの和式・洋式の数も確認する。

問 人口減少に歯止めをかけるために、どのような考えで産業振興に取り組むのか。

答 「本社機能移転強化促進事業」については、新しい視点で、若者を引き付けるための企業誘致に戦略的に取り組む。



県内に設置されている太陽光発電施設

む。また、従来から頑張ってきた中小企業の振興も大切である。両方の視点を持ち、産業振興にしっかりと取り組む。

問 「宇宙ビジネス支援事業補助金」の応募件数が数件であり、宇宙ビジネスを目指す企業が少なく感じている。参入拡大に向けた取り組みは。

答 宇宙ビジネスはなじみの薄い分野であるため、機運醸成が重要と考えている。そのため、「いばらき宇宙ビジネスサミット」の開催などにより、情報発信に努める。また、コーディネータによる企業訪問などを実施し、宇宙ビジネスへの参入を促進していく。(ほかに、世界湖沼会議を踏まえた今後の対応、商店街のぎわいづくりなども質問)

保健福祉医療委員会

**全国障害者スポーツ大会茨城大会に
向けた競技力向上の取り組みは
強化選手を対象に
強化練習会などを開催している**

問 来年度に開催される全国障害者スポーツ大会茨城大会に向けた競技力向上の取り組みは。また、参加者の少ない団体競技の支援の取り組みは。

答 強化選手を対象として、強化練習会や記録会を計画的に開催している。また、参加者の少ない団体競技の普及推進や選手の確保に努めてきた。その結果、全ての競技種目でチーム結成ができていく。

問 本県における民泊の状況は。また、トラブルなどは発生していないのか。

答 平成三十年十月末現在で民泊の届出を四十三件受理した。宿泊者数は六、七月が二百五十名。八、九月が千二百四十名。また、今のところトラブルについては聞いていない。

問 重症化した糖尿病患者の医療費は非常に高額である。そのため、予防には治療中断者の抽出や受診勧奨が重要だが、本県の取り組みは。また、県で策定した糖尿病性腎症重症化予防プログラムの概要は。

答 KDBシステム※から治療中断者の抽出ができるようになったため、市町村を集め周知を図っている。予防プログラムでは、保険者が医療機



強化練習会の様子(陸上競技)

関と連携し、重症化リスクの高い未受診者・治療中断者への受診勧奨などの手順などを示している。

問 県立こども病院では先進的なゲノム医療※に取り組んでいるとのことだが、治療法は確立されているのか。

答 ゲノム医療は取り組みが始まったばかりである。より効果的な治療につながる一方、将来の病気に関連する遺伝子異常が偶然見つかることもあり、患者やその家族への丁寧な説明が必要となる。このため、専門医などの人材の確保・育成が重要である。(ほかに、第四期県立病院改革における経営基盤の安定・強化、県立あすなるの郷の指定管理状況なども質問)

ことは

※【タンDEM自転車】…複数人が前後に並んで乗ることのできる自転車。
 ※【KDBシステム】…国保データベースシステム。市町村(保険者)が効果的な保健事業を実施できるよう、国保連合会が特定健診や特定保健指導などの情報を提供するもの。
 ※【ゲノム医療】…個々人のゲノム情報(遺伝子などの情報)を調べ、その結果を基に、疾患の診断や治療、予防をより効率的・効果的に行うもの。

営業戦略農林水産委員会

林業における経営体の育成を どのように進めるのか 自立した経営に挑戦する 経営体への支援を進める

問 今後の林業経営は、自ら経営計画を立てて実行できる人材が必要である。経営体や担い手の育成をどのように進めていくのか。

答 自立した経営に挑戦する林業経営体に対し、施業の効率化を図る高性能林業機械の導入補助や、航空レーザー測量による森林情報の提供、経営集約化計画の着実な実行指導などにより、経営体の育成を図る。また、各種研修を通じて担い手を育成していく。

問 農業用水利用の効率化やコスト低減を図る上で、ICTを活用した水管理システムの導入が必要と考える。どのように導入を図っていくのか。

答 今年度から県内の標準的な規模の水田で効果検証を行っている。次年度は自動給水栓などを設置して導入効果を検証し、地元の情報提供しながら導入を進めていきたい。

問 今年の地域ブランド調査で本県の魅力度は四十七位だった。この結果をどのように考え、魅力度向上にどのように取り組んでいくのか。

答 残念な結果で、本県の魅力がまだ十分に伝わっていないと感じている。結果は真摯



高性能林業機械による立木伐倒の様子

に受け止めるが、それ自体を目的にせず、引き続き対象を明確にしてプロモーション活動を行うほか、県公認バーチャルYouTuber(茨ひより)の活用など新たな取り組みも展開し、魅力発信の強化を図っていく。

問 サイクリングを生かした観光誘客につなげるため、海外からもサイクリストを呼び取り組みを進めてはどうか。

答 サイクリングを活用した海外からの誘客については、台湾におけるプロモーションを今後予定している。関係部局とも連携し、茨城でサイクリングを楽しんでもらえるよう取り組んでいきたい。

(ほかに、常陸牛の生産対策、イバラキセンス※の運営戦略なども質問)

土木企業委員会

偕楽園での定期的な イベント開催が必要では 定期的に開催できるような 仕組みづくりを検討していく

問 偕楽園の魅力向上には、ホームページでの分かりやすいイベント情報の発信に加え、主催者に対し開催日を誘導するなど、定期的なイベント開催も必要と考えるが、所見は。

答 利用者が見やすくなるよう、ホームページおよびSNSを工夫し、情報発信に努める。集客やにぎわいづくりのため、イベントを定期的に開催できるように仕組みづくりも検討していく。

問 地域からの道路整備に関する要望は多い。以前に比べ公共土木予算が抑制されている中、整備に当たっては優先順位を決める必要があるが、その考え方は。

答 交通量や周辺開発の状況、港湾やインターチェンジへのアクセスなどさまざまな観点から、重要度や緊急性、効果なども考えながら総合的に判断している。国の補助制度をうまく活用して予算の確保に努め、整備を推進していく。

問 総合治水として、ため池などを使った「貯める対策」に取り組むことは重要と考える。さらに、水田を買収して一時的な貯水池にすることも有効と考えるが、所見は。

答 モデル河川において、ため池活用に加え、水田利用の効果なども検討している。減災対策協議会に「貯める対策」を位置付けており、市町村と連携して取り組んでいく。

問 本県の水道普及率は平成二十八年で九十四・四％と、全国平均の九十七・九％に比べて低い状況にある。水道普及率の向上に向けて、どのような方策を考えているのか。

答 末端供給をしている市町村の財政体質の強化も重要であり、国が打ち出している広域連携も一つの方策と考える。国会の動向も踏まえ、関係部局と連携して取り組んでいく。(ほかに、国道六号の四車線化、健康づくり等に寄与するインフラ整備なども質問)



萩まつりライトアップと野点茶会(偕楽園)

文教警察委員会

本県が目指す教育とは 子どもたちの可能性を伸ばす 教育を進める

問 時代が変わる中、茨城の発展を支える教育の在り方が問われている。教育長自ら、本県教育の進むべき道を県民や現場の教職員に語り掛けていくべきと考えるが、所見は。

答 人間として教えるべき大事な部分是不変だが、時代によって求められる知識や技能は変わる。県総合計画と方向性を一に、本県教育の理念を現場に伝え県民に発信し、子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めていく。

問 県では、就学前教育などの推進拠点となる「就学前教育・家庭教育支援センター」の設置を検討しているが、現在の進捗状況は。

答 本県の就学前教育・家庭教育を進める上で、中核的な組織の役割は、人材育成や情報提供など、市町村が主体的に推進できる体制の構築支援が柱になると考える。それらを踏まえて、具体的な機能や組織の在り方について検討を進めている。

問 国体イメージソングやダンスは、着実に子どもたちの間に浸透していると感じる。これまでの取り組みは。

答 九割を超える小中学校が運動会などのイベントで国体ダンスを取り入れるなど、普及を進めてきた。大会の成功に向け、さらなる機運の醸成に取り組んでいく。

問 高齢歩行者の事故防止に向けて、最新の分析データを活用した横断時の左右確認の在り方など、新たな視点による対策も必要と考えるが、どう取り組むのか。

答 高齢歩行者の死亡事故中七割が夜間であるほか、道路横断時、左方向から来る車両による事故が多いとの分析結果がある。反射材の着用促進はもとより、交通環境の変化に応じた安全対策に取り組んでいく。



国体・障害者スポーツ大会の一層の機運醸成を

ことば ※【イバラキセンス】…IBARAKI sense。銀座1丁目にある茨城県のアンテナショップ(旧 茨城マルシェ)。10月25日にリニューアルオープン。

各会派 今任期四年を 振り返って



いばらき自民党
議員会長
衛 梨葉

り組みです。時代の転換期を迎える中で、長期県政によるマンネリ化や、その弊害を一扫しようと、国や民間の経験豊富な新人候補を擁立しました。

「新しい茨城づくり」にチャレンジ

師走の慌ただしい中で行われた県議選では、わが党の候補者に県民の皆様から温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

今任期を振り返りますと、まず、平成二十七年九月に発生した関東・東北豪雨災害への対応が挙げられます。鬼怒川の堤防が決壊し、常総市の三分の一が浸水するなど、甚大な被害が発生しました。

我々は九月定例会本会議の日の開会前に、所属議員約二十人が現地に向き、急ピッチで進む復旧工事等を調査するとともに、議会に戻ると、その足で知事に對し、被災者支援など災害対策を緊急要請しました。素早い対応だったと自負しています。

現職のぶ厚い壁を突破できたのは、所属県議が一丸となって挑んだことはもとより、「変わらなければ」との選択が、県民の思いと合致した結果だったと思います。本県では、十一月に「活力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念とする新たな県総合計画が策定され、大井川県政の下、「新しい茨城づくり」が本格始動します。

我々は今期も、議員提案による政策条例を七本制定するなど、政策立案機能の強化に努めています。来期もさらに磨きを掛け、県政の責任政党として、共に県勢発展に向け、チャレンジしていく決意を新たにしたいところです。

県民の皆様が、変わらぬご支持が原動力です。そうした観点からも、来年が多岐年でありませう、議員一同、心より祈念しております。



自民県政クラブ代表
江田 隆記

県民の目線に立って 茨城づくりに全力

師走を迎え、県民の皆様には何かと忙しい日々をお過ごしのことと拝察します。

今任期を振り返りますと、平成二十九年二月に圏央道の県内区間が暫定二車線で全線開通し、企業立地の促進や観光客増加、茨城港や茨城空港の利便性向上などが図られました。その整備効果を最大限に発揮させるためには、早



県民フォーラム代表
長谷川 修平

「自由、共生、未来への責任」を理念に

師走を迎え、皆様方におかれましては、多忙な日々をお過ごしのこととご推察いたします。先の県議選では、県民フォーラム候補へのご支援、ご協力を頂きましたことに心から感謝申し上げます。

さて、今任期を振り返りますと、関東・東北豪雨をはじめ自然災害が頻発に発生しました。災害から県民の生命と財産を守る対策の強化と復興再生の

期四車線化や新四号国道を含むアクセス道路の整備が不可欠であり、今後も全力で取り組んでまいります。

また、次世代がん治療法「BNCT」が、ついに来年度の治験に向けて動き出しました。

さらに、二十四年ぶりに新知事が誕生しました。来年度からの県立高等学校など五校への医学コース設置は、将来の医師確保につながるものと大いに期待しています。

二〇二五年には団塊の世代が全員七十五歳以上となります。医療と福祉は切り離せない一体的なものであり、介護問題を含め、超高齢社会にしっかりと対応していく必要があります。

自民県政クラブは、今後とも県民の皆様のご生活を第一に、県勢の発展に向けて全力で取り組んでまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

着実な推進を図ってまいりました。

また、人口減少社会、少子高齢化、格差・貧困社会が進展する中、生活者・働く者の立場に立ち、県民が安心して暮らせる共生社会を目指した政策実現に取り組んでまいりました。

そして、本年二月には地域政治団体として「茨城県民フォーラム」を設立し、自由、共生、未来への責任を私たちの理念とし、地域主権を旗じるしに仲間の結集を進めているところです。

昨年大井川新知事が誕生し、活力があり、県民が日本一幸せな県づくりに向けた決意のもと、県総合計画が策定されました。私たちは現場主義を基本に二元代表制の役割を果たしてまいります。

今後とも、県民の皆様との信頼、絆をより一層強め、私たちのめざす共生社会の実現に向け、会派一丸となって取り組んでまいります。



公明党
茨城県議会代表
井手 義弘

「住んでいる人が幸せと感ぜられる いばらきづくりに全力投球

年の瀬を迎え、皆さま方には、ご多忙の日々をお過ごしのことと存じます。この度の県議選では、私ども公明党の候補者全員当選を果たすことができました。県民の皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。

人口減少社会への対応、少子高齢化、地域の活性化など待ったなしの課題に茨城県は直面しています。一方、陸海空の



日本共産党
茨城県議会代表
山中 たい子

いのち・くらし・憲法を まもる政治へ力合わせ

この度の県議選では、あたたかいご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。

日本共産党は、各分野の方々とともに暴走政治を許さない流れを県内で発展させるために力を尽くしました。

県民要望が強い子育て支援や高齢者福祉・医療の充実に取り組みました。児童虐待相談に対応する児童福祉司を増員し、医師確保修学資金の拡充、高

交通網の充実や豊かな自然、首都圏の一角に位置する地の利など、茨城は無限の可能性をもった県です。

「住んでいる人が幸せと感ぜられるいばらきづくりに、私ども公明党の四人の県議は、皆さまの生活現場に飛び込み、皆さまの声を代弁し、明日のいばらきの可能性を大きく開いてまいりました。子どもの医療費無料化の拡充や私立高校授業料の無償化範囲拡大、県南発達障害者支援センターの設置など、この四年間に多くの政策を実現することが出来ました。また、大きな自然災害が連続する中、「防災の党」公明党の旗印の下、県民の命と財産を守る活動を展開してまいりました。

大井川知事とともに、活力ある安心安全のいばらきをめざして、次の四年間、創造と挑戦の議会活動を行ってまいります。来るべき年も、皆さまに実り多き一年であることを祈念いたします。

校卒業（入院）までの医療費無料化、少人数学級の拡大、コミュニティ交通への補助など実現できました。障害児者の福祉や保健所の統廃合、種子法廃止の問題でも共同を広げました。

公共事業は、常陸那珂港建設など大型開発の見直しを指摘。ハツ場ダム、霞ヶ浦導水事業など過大な水源開発を中止し、県水道料金の引き下げを求めました。

東海第二原発は、運転期限の四十年を超え、二十年延長が認可されました。県民世論は再稼働に反対です。三十四市町村議会から再稼働反対や慎重な対応を求める意見書があがっています。「再稼働ストップ」の一点で共同の運動を今後すすめます。

暮らしも景気も悪くする消費税10%は中止させましょう。

九条改憲反対の一点で共同を広げ、住みよい茨城をつくるために一層力を合わせます。

常任委員会提言(抜粋)

各委員会では、個別の重点審査テーマを設定して調査活動を行い、それを踏まえ、取り組むべき政策を執行部に提言しました。

総務企画委員会 (石井邦一委員長)

- テーマ…「日本一幸せな県」の実現に向けた新たな挑戦
- 提言…いばらきふるさと県民登録制度において、目標の登録者数五千人を達成するために、東京近郊からの来客が多い県内の施設や空港、道の駅、県外の宿泊施設など、さまざまな施設において本制度の周知を図ること

防災環境産業委員会 (中村修委員長)

- テーマ…県民生活環境部関係「文化に親しむ環境づくり」
- 提言…若手芸術家をはじめとした文化芸術の担い手に、より多くの活動機会を提供することにより、その育成に努めていくこと
- テーマ…産業戦略部関係「新産業育成、中小企業の成長支援」
- 提言…産業技術イノベーションセンターの「IoT/食品棟」の新設により、IoT・ロボットなどの機器の設置環境が改善されたことから、人材育成、模擬スマート工場を活用した実証実験や生産システムの共同開発などの企業への支援をさらに促進すること

保健福祉医療委員会 (田口伸一委員長)

- テーマ…「安心できる地域医療の充実」
- 提言…医療提供体制における機能分化、病院と診療所など医療機関同士の連携促進については、各構想区域で設置している地域医療構想調整会議において具体的な議論を行い、個別の病院名や転換する病院などの具体的対応方針を策定し、地域医療構想の実現に向けて県として積極的に取り組んでいくこと

営業戦略農林水産委員会 (星田弘司委員長)

- テーマ…「新しい豊かさを創る強い農林水産業と新しい夢・希望を創る国内外から注目される茨城の実現に向けた方策」
- 提言…生産性の向上や付加価値の向上、新たな販路の開拓など、意欲ある経営体・産地の創意工夫ある取り組みを支援し、収益性の高い経営モデルを確立するとともに、他の経営体・産地へ波及させることで、「儲かる農業」を早期に実現すること

土木企業委員会 (下路健次郎委員長)

- テーマ…「地域振興とイメージアップに必要な社会資本整備」誇りある郷土・交流人口の拡大につながる県土づくり」
- 提言…高速道路については、広域的な交流の拡大や企業誘致のため、国や東日本高速道路株式会社と連携し、圏央道の早期四車線化、東関東水戸線の早期全線開通、休憩施設(SA、PA)の早期設置を推進し、利便性向上を図ること

文教警察委員会 (加藤明良委員長)

- テーマ…警察本部関係「飲酒運転の根絶と高齢者の交通事故抑止対策」
- 提言…飲酒運転の一斉取り締まりを恒常化できるよう、交通警察官が充足しているかを確認し、警察官の配置を見直すこと
- テーマ…教育庁関係「子どもたちの『社会を生き抜く力』の育成」
- 提言…幼児教育施設と小学校の相互理解が進むよう、小学校の教員が入学前どのようなような保育・教育が行われているかを知る機会を増やしていくこと

国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会

両大会の成功に向けた取り組みや両大会後も見据えた競技力の向上などについて提言

本委員会(海野透委員長)は、来年本県で開催される、国体・全国障害者スポーツ大会の推進およびこれらを活用した地域づくり等に関する諸方策について調査・検討を重ね、定例会最終日に、両大会の成功に向けた取り組みや両大会後も見据えた競技力の向上などについて報告しました。

【主な提言内容など】

- 一 両大会の成功に向けて
 - 両大会に対する県民の認知度が低いことから、県民総参加に向けて、さらなる機運醸成および広報活動の推進に取り組む必要がある。
 - 「いばらき観光おもてなし推進条例」などを踏まえ、おもてなしをはじめとした県民運動の推進に積極的に取り組む必要がある。
 - 両大会の開催期間中には全国から数多くの方々の来県が見込まれることから、安全・安心の確保に向けて最大限の警備体制を講じるとともに、悪天候時における大会運営などについて十分に検討する必要がある。
 - 競技会場のトイレについて、おもてなしとともに本県のイメージアップのため、洋式化および温水洗浄便座の設置を検討する必要がある。
- 二 両大会後も見据えた競技力の向上等
 - ジュニア選手の発掘・育成に当たっては、競技団体や大学などと連携し、中長期的な視点に立ち、戦略的・体系的な強化計画を策定する必要がある。また、国体終了後も、開催された競技種目が各地域に定着し、競技力向上や地域への普及啓発が行われるよう、継続して支援していく必要がある。
 - 成年選手および指導者の確保に当たっては、雇用の場の確保が重要であることから、競技団体と連携し、国体終了後も雇用の場の確保に向けた取り組みを推進する必要がある。
 - 笠松運動公園について、本県スポーツの拠点であり続けるとともに、競技力向上に寄与するため、施設整備および利用環境の見直しを図る必要がある。特に、水泳競技とスケート競技が、それぞれ単独での通年使用を可能とする専用施設の整備や、民間の力を活用した県体育協会会館の建て替えについて検討する必要がある。
- 三 両大会等を通じた地域活性化に向けた取組
 - 両大会の開催を契機に、スポーツを魅力ある資源として積極的に活用し、地域の活性化につなげていくことが重要である。このため、スポーツイベントの開催やスポーツツーリズムを積極的に推進していく必要がある。
 - 全県的にスポーツツーリズムを推進していくため、スポーツコミッションをはじめとした専門的組織の整備を検討する必要がある。

※報告書の全文はホームページでご覧になれます。



報告を行う海野透委員長

新しい茨城づくり調査特別委員会

「新たな県総合計画の在り方」について提言

本委員会(西條昌良委員長)は、「新たな県総合計画の在り方等」についての調査・検討を重ね、定例会最終日に調査結果を報告しました。

【主な提言内容など】

- 新たな県総合計画作成に当たっては、茨城県議会基本条例第二十五条第二項による初めての提言として、計画の原案で示されていなかった重要な点や、計画実現に向けて重点的に取り組むべきことなどを指摘し、計画に的確に反映するとともに、効果的な取り組みを行うことを県に求めました。
- 一 「計画の在り方」について
 - 「茨城をチェンジし、様々な課題解決にチャレンジする計画」であること宣言し、目指す未来の茨城の姿を描き、県民と夢や希望を共有し、県民と共に新しい茨城づくりを進めること。
 - 二 「計画で展望・想定する期間」について
 - これからの十年で茨城の未来が決まることを強く認識し、「十年後の目標値」を設定して新たな挑戦に取り組むこと。
 - 三 「計画実現に向け重点的に取り組むべき事項」について
 - 「県の枠を超えた広域ネットワークの強化」により、地域間のひと、もの、情報などの活発な流れを創出すること。
 - 支援を必要とする人へ配慮し、「誰一人取り残さない社会づくり」を行うこと。
 - 四 「計画推進の基本姿勢」について
 - 計画実現のため、県民が計画を自分の事として考え、行動していきけるようにつなぐこと。
 - 五 「基本計画」について
 - 正規雇用を目指した対策、新産業の育成、強い農林水産業の推進、自然環境の保全と再生などの取り組みを強化すること。
 - 医師などの人材育成に重点的に取り組むこと、教育環境の整備、県立中央病院の在り方について方向性を示すこと、心の健康にも積極的に取り組むこと。
 - 介護や健康の環境整備や、障害のある人も暮らしやすい社会づくりを進めること、地域を大事にする社会教育を推進すること。
 - 災害に強い県土とするため、最近の災害を踏まえ改めて防災対策を総点検し、各種取り組みを推進すること。
 - 豊かな心を育む教育の充実や、男女ともに働きやすい環境づくりを進めること。
 - 六 「魅力ある観光イメージづくりや、地域間の交流促進につながるインフラ整備などを進めること。
 - 七 「地域づくりの基本方向」について
 - 市町村の特性を活用し、地域間のネットワーク強化により地域振興を進めること。
 - 県庁からの意識改革、官民協働による行政改革を進めること。

※報告書の全文はホームページでご覧になれます。



報告を行う西條昌良委員長

議員提案により「茨城県子どもを虐待から守る条例」を制定しました

背景

子どもに対する虐待が、深刻かつ重大な問題となつていきました。児童相談所における虐待相談の対応件数は年々増加しており、昨年度は、全国で十三万件を超え、本県においても過去最多の二千二百五十六件の相談が寄せられています。また、虐待により子どもの尊厳が奪われる痛ましい事件も全国で後を絶たない状況にあります。

目的

子どもを虐待から守ること(以下「虐待防止」という。)に関し、基本理念を定め、関係者の責務や役割を明らかにするとともに、虐待防止に関する施策の基本となる事項を定めることにより、虐待防止に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって次代の社会を担う子どもが健やかに成長することができる社会の実現に寄与することを目的としています。

主な内容

《関係者の責務や役割・連携協力》

○県や保護者、県民、市町村、関係機関などの責務や役割を規定するとともに、相互の連携協力について規定しています。

《虐待の予防・早期発見・早期対応》

○子育て支援や、通告・相談をしやすい環境整備、通告を受けた場合の迅速な安全確認の実施などについて規定しています。

○情報共有の強化のため、児童相談所が把握した全ての児童虐待事案の警察への情報提供や、支援をしている家庭の転出・転入の場合における適切な引き継ぎの実施について規定しています。

《子どもへの支援・保護者が孤立しない社会づくり》

○虐待を受けた子どもに対する援助や、児童福祉施設における家庭的な養育環境の整備などの社会的養護や自立支援の充実について規定しています。

○虐待を行った保護者が再び虐待を行わないよう必要な支援を実施することや、地域における虐待防止に関する活動の推進などを規定しています。

《児童相談所の体制強化・県や市町村などの人材育成》

○国の基準を超える人数の児童福祉司の配置をはじめ、児童相談所の体制の強化に努めることを規定しています。

○人材の専門性の向上を図るため、研修の機会の確保その他の必要な措置を講ずることを規定しています。

施行

この条例は、平成三十一年四月一日から施行されます。

議員提案条例の状況

本県の議員提案による政策条例は、今回で十六件となります。県議会では今後とも、議会の政策立案機能を強化してまいります。



条例の提案説明を行う森田悦男議員

決算特別委員会

決算特別委員会(福地源一郎委員長)は、平成三十年第二回定例会で設置され、第三回定例会で付託された平成二十九年度決算の認定議案などについて、公営企業会計や一般会計などの部門別審査と全部局を対象とした総括審査を実施するため、計七回の委員会を開催しました。

部門別審査は、監査委員の決算審査意見を参考に、部長長などから説明を聴取し、予算が適正かつ効果的に執行されたかという視点を基本に行いました。

さらに、昨年度に各常任委員会が設定した重点テーマに関連する事業について重点的に審査を行いました。

質疑では、水道事業施設における管路耐震化の推進、森林湖沼環境税活用事業の実績、若者や女性の創業支援、献血の普及・啓発と献血者の確保、就学前教育の充実、障害者スポーツの普及促進などについて活発な質疑応答が交わられました。審査の結果、予算の執行および決算は、いずれもその内容を適正なものと認め、原案を認定および可決すべきものと決定しました。



出前委員会を開催しました

県議会では、開かれた議会を目指し、県議会議事堂以外の場所において総務企画委員会(石井邦一委員長)および土木企業委員会(下路健次郎委員長)を開催しました。

【土木企業委員会 開催結果】

日時 十月五日(金) 午後一時三十分

場所 牛久市中央生涯学習センター

テーマ 地域振興とイメージアップに必要な社会資本整備

○観光地などの連携や企業誘致を支える基盤整備とその活用
○地域の魅力を向上させる取り組み



【総務企画委員会 開催結果】

日時 十月十日(水) 午後一時三十分

場所 古河市生涯学習センター総和とねミドリ館

テーマ 「日本一幸せな県」の実現に向けた新たな挑戦

○働き方改革に向けた取り組み
○移住・二地域居住の推進に向けた取り組み



永年在職議員表彰

十月二十九日に茨城県議会の永年在職議員表彰が行われました。表彰を受けた議員は次の通りです。

二十五年在職	田山 東湖 議員
二十年在職	臼井 平八郎 議員
十五年	藤島 正孝 議員
十年	森田 悦男 議員
	山岡 恒夫 議員
	川津 隆 議員
	常井 洋治 議員
	福地 源一郎 議員
	伊沢 勝徳 議員
	西野 一 議員



後列左から、伊沢議員、川津議員、森田議員、福地議員、西野議員
前列左から、臼井議員、常井副議長、山岡議長、田山議員、藤島議員

県議会を傍聴しませんか

本会議は、県議会議事堂五階の受付で住所と氏名を記入すると傍聴できますので、ぜひお越しください。

お問い合わせ先

電話 〇二九一三〇一一五六三四